



コミミスクス

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 142

2021

12.24

まちづくり勉強会が開催されました

持続可能な地域づくり
-多様な人材の参画で未来を拓く-

まちづくり勉強会
まちづくりへの多様な関わりを考える

持続可能な地域づくり
-多様な人材の参画で未来を拓く-

作野広和
島根大学教育学部社会科教育専攻
教授

12/19(日) 13:30-15:30

50名

12月19日(日)にウイズあかしで明石コミュニティ創造協会さん主催の“まちづくり勉強会～まちづくりへの多様な関わりを考える講演・事例紹介～”が開かれました。私は会場での参加ではなく、YouTube ライブでの聴講という形で参加させていただきました。対面かオンラインではなく、対面でもOK、オンラインでもOK というハイブリットな参加方法なので、すごく参加する敷居の低さを実感しました。こうした参加形式での開催もコロナ禍の中で



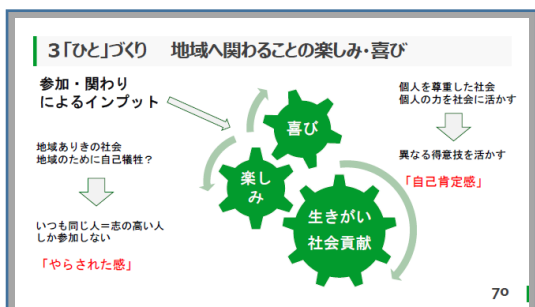
一気に進み、普通になってきている中で、「こうでなければ」といった発想のままでは、これからは取り残されていくんだろうなと思いながら参加させていただきました。

“まちづくり勉強会”は、まず作野広和先生(島根大学教育学部教授)の「持続可能な地域づくり -多様な人材の参画で未来を拓く-」をテーマにしたお話の後、事例紹介として中崎小、朝霧小、二見北小の3校区より、まちづくりの実践紹介という流れでまちづくり勉強会は進行していきました。

作野先生の“女性がすーっと消えるまち”というお話は、硬直した組織にはありがちなんだろうなと感じました。ジェンダーギャップが強く、声の大きな人の発言に引っ張られてしまうといった傾向がある地域からはいつの間にか若い層、特に女性が消えていくという実態を紹介していただきました。消滅可能性都市の要因としてあがっている「女性にとって魅力のないコミュニティはいずれなくなる」といった話にもつながると感じました。

作野先生の資料の中に「志縁」という言葉があります。持続可能な地域づくりに向け多様な人材を巻き込んでいくためには、これまでの地縁というつながりから、地域の中での想いがつながっていく志縁というつながりが必要だと感じました。地域づくりで“2割は足を引っ張る層(=どうにもならない層)”をまちづくりのすすまない理由にするのではなく、関心層をどう取り込んでいくかという発想が必要という話を聞きながら、出来ない・進まない理由さがしをしていた自分を反省しました。

地域の中には、関わりたいと思っている人は意外というが、まちづくり全部になると重たく感じ、でも自分のできることならと思っている人がけっこういる。そうした層が参加できるスタイルへ転換し



ていくことが必要だということは、いろいろな組織に共通していることだと思いました。

“努力のまちづくり(課題解決型)”から“楽しみ生きがいのまちづくり(社会貢献欲求)”へ転換していくことが持続可能な地域づくりにつながるだけでなく、そうした考え方は持続可能な社会づくりを担う子どもたちを育てていくベースになる考え方になるのではと思いました。(図：作野先生勉強会資料より引用)

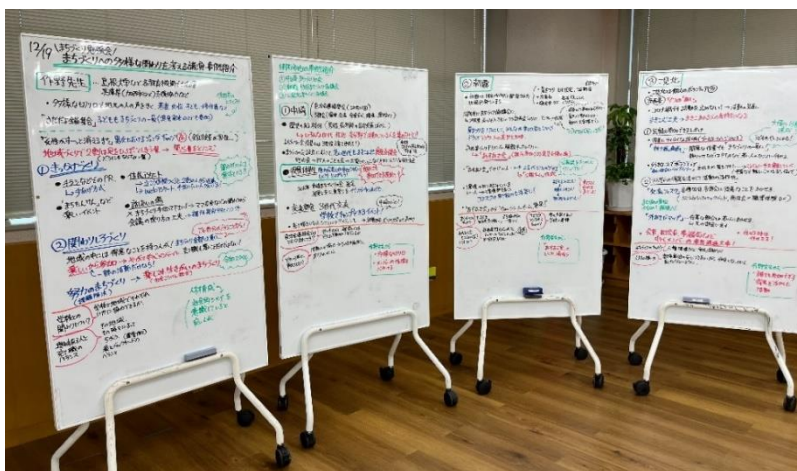
この指とまれ
できる事を、できる時に、できる人が

作野先生のお話のあと、中崎小校区・朝霧小校区・二見北小校区の3校区のまちづくり組織からそれぞれの校区ですすむ取組について事例

紹介がありました。それぞれの校区からの事例紹介を聞きながら共通しているのは、“多様な人を巻きこんでいくための工夫”と“活動・運営の見える化”だと感じました。

まず中崎小校区からはこれからの地域づくりを進める上で、様々な世代から性別に関係なく、各分野で活動できる人が個人でも参画できる仕組みを目指したことで、夏休み期間中の学校でのキャンプなど、人と人がつながっていく世代間交流が生まれるイベント等が生まれてきたという報告がありました。次に朝霧小校区からはまちづくり協議会をよりオープンなものにする誰でもが参加できる“あすあさ会”での対話から、小学校の児童会も加わり新たな地域イベントとして生まれた“朝霧ウォーク”など、対話がきっかけとなって大人だけでなく子どもたちの地域活動への意識が高まってきたという報告がありました。最後に二見北小校区からは「折り紙企画」として「折り鶴」や「飾り輪(小学校の創立50周年記念企画)」を折ってもらう折り紙ボランティアを呼びかけたところ、子どもたちも含め多くの人に参加され、目標をはるかに超える折り鶴や飾り輪が集まる中で、簡単な作業でも、目標達成度などを提示することにより、まちづくりに貢献しているという意識の見える化につながり、ボランティアの意識をより高めることができたといった報告など、3校区の方から興味深いお話を聞かせていただきました。

「持続可能な地域づくり-多様な人材で未来を拓く-」をテーマにした作野先生のお話、そして3校区からの事例紹介、そして質疑を視聴しながら、学校は教職員・教育委員会も含め学校関係者という地縁の中に存在しているのではと思えてきました。大きな社会変化に対応することが必要になった時「大義名分」「口実」が必要で、「できない理由」を考えてしまいがちな硬直した組織ではなく、志を持った人の志縁ネットワーク的なつながりに転換し、多様な人材を学校のためでなく、子どもの成長のために巻き込んでいくのがコミュニティ・スクールという仕組みだと新たに認識することができました。



子どもたちの成長のためにつながっていくことは、持続可能な地域づくりでもあり、志縁というネットワークがこれからはキーになってくるということを今日の勉強会で学ばせていただきました。(文責：北本)

子どもたちの成長のためにつながっていくことは、持続可能な地域づくりでもあり、志縁というネットワークがこれからはキーになってくるということを今日の勉強会で学ばせていただきました。(文責：北本)

(ホワイトボードの記録=楽しく話し合うための工夫なんですね)